

2020年5月25日

パルシステム東京生活協同組合様

ペシャワール会

2002年9月のご支援以来、長きに亘り当会のアフガニスタンにおける活動にご理解と多大なるご支援を賜りまして、ありがたく厚く御礼申し上げます。

昨年12月4日、PMS（ピース・ジャパン・メディカル・サービス）総院長／ペシャワール会現地代表の中村哲医師が死去致しました。今日に至るまで、全国の皆様から、お心のこもった哀悼の意と、中村医師の活動を継続してほしいとのお励ましの言葉を頂戴致しました。アフガニスタンにおける現地PMSの事業は、今後も変わることなく続いていきます。ペシャワール会も全力で現地を支えて参りますので、これからも末永いご支援をよろしくお願い申し上げます。

お寄せいただきました組合員皆様からの平和カンパ1,467,384円はPMSの事業に有効に使わせていただきましたことをご報告しますとともに深く感謝申し上げます。

2019年度の現地プロジェクトは以下の通りです。

《2019年度プロジェクト報告》

1. 医療事業

2019年度は前年度に引き続き、PMSのアフガニスタン東部山岳地ダラエヌールの診療所では、24時間対応できる診療体制を維持しています。1991年に開設されたこの診療所では、一般診療に加え母子健康保健向上のため女性職員による妊産婦の保健指導、ワクチン接種や結核治療も進められています。地域に根ざした診療活動は、住民からの信頼を集めています。（年間診療数約4万人）

2. 灌漑事業

2019年度は以下の事業を手がけました。

〈マルワリードⅠ用水路改修〉

マルワリードⅠ用水路（2003-2010）の改修工事を開始しました。同流域では、農地が次々に復旧され、耕作地が広がっています。着工から16年を経て、着工当時ではわからなかった不備を補うため、4年間で取水門の拡張と堰の改修（土砂吐きの設置）、用水路床の再ライニング（水路床覆工）、洪水通過部の拡張、植樹の整備などを予定しています。今年度は用水路1.6km地点までのライニングを行いました。

PMSは用水路の維持補修をこの4年間で地域を巻き込んで進めていく方針です。

〈マルワリードⅡ用水路事業〉

今年度は、主に排水路整備と護岸工事を行いました。排水路は4本中2本が完工し、護岸工事は全線8.9km中、8.2kmまで基礎工事が完了しました。排水路を整備し給水と排水を分離した事により、湿地が減少し耕作地として利用出来る土地が拡大し

ています。マルワリードⅡ事業流域では麦畑が広がり、今年3月はこの地域では初となるスイカの作付けが行われました。

〈ミラーン訓練所〉

ミラーン堰横に2017年に建設された訓練所では、PMS職員をはじめ、地方自治体の農業指導者、水主、技術者たちを対象に「PMS取水方式」の広域展開へ向けて訓練を行ってきました。2018年には再び食料危機警告が発せられる程の大干ばつが全土を襲い、農地の乾燥化が進んでいた中、今年度はアフガン全土から240人の技官たちが研修を受けました。

地元で手に入る巨礫や柳の挿し木、針金で作る蛇籠工などで工夫されたPMS方式について実地訓練を中心に学んだことで、研修生たちは「実例があることが何よりも励み」とPMS取水方式に一縷の希望を託しております。

3. 農業事業

試験農場としてマルワリードⅠ用水路最終地点のガンベリ砂漠に約230haを確保し、農業生産を行っています。そのうち3分の1の土地で穀類や野菜、果樹を中心に様々な栽培が試みられております。中でも伝統的な黒砂糖生産も農場で可能となり、また7頭から始まった畜産は現在47頭に増えるなど、アフガニスタンの農業に沿った事業が進められております。

2019年4月から開始した養蜂事業や、PMS農場20haに植えられたオレンジ約2万5千本は今後農業事業の大きな要となることが期待されます。昨年度に引き続きPMS農業責任者の来日研修を実施しました。養蜂場を視察し、農業試験場にて柑橘類の剪定法を実地研修しました。

4. 今後の活動に向けて

中村哲医師の死去を受け、ペシャワール会とPMSは中村先生が実践してきた事業はすべて継続し、彼が望んだ希望は全て引き継ぐと決意し、村上優会長がPMS総院長に就任しました。2020年2月にインドにおいて、アフガニスタンのPMS主要メンバー8名と、日本から村上会長をはじめPMS支援室の6名が会合し、これからの活動に向けて協議を行ないました。現地では事件後一時中断していた医療・灌漑・農業の全事業が再開しています。

今後はこれまで以上に日本とアフガニスタンの連絡を強化し、医療・農業・灌漑事業を継続するとともに、中村医師が今後予定していた事業の実現に向けて支援をしていきます。

アフガニスタン全土では現在もなお、干ばつにより人々の暮らしが困窮しています。PMSの活動が地域復興のモデルとして確立ができるように、2020年度も引続き安定した取水システムの建設、流域住民による維持・管理を促進し、人々の安定した生活を保障するための活動を継続して参ります。